

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SER no.156; Cover, contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-12-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009968

Senri Ethnological Reports

156

SER 156

国立民族学博物館
調査報告

156

Research Trends
on Indigenous Cultures
along the North Pacific Rim Regions

Edited by

Nobuhiro Kishigami

環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向

岸上伸啓 編

環北太平洋沿岸地域の
先住民文化に関する研究動向

岸上伸啓 編

National Museum of Ethnology
Osaka 2022

ISSN 1340-6787
ISBN 978-4-910055-06-0 C3039



国立民族学博物館 2022

国立民族学博物館 調査報告

156

環北太平洋沿岸地域の
先住民文化に関する研究動向

岸上伸啓 編

国立民族学博物館

2022

目 次

はじめに	岸上 伸啓	1
------------	-------	---

第1部 ユーラシア大陸シベリア・北太平洋沿岸の先住民族の歴史・言語・文化

シベリアにおける集団形成史をめぐる研究動向	加藤 博文	15
環北太平洋諸言語におけるチュクチ・カムチャツカ語族の位置づけ —— Fortescue (1998) の ‘Uralo-Siberian’ 仮説の検証	呉人 恵	51
ロシア・カムチャツカの先住民に関する研究動向とその歴史	渡部 裕	79
千島アイヌの起源に関する学説整理と考古学からの展望	高瀬 克範	99
樺太アイヌに関する民族学・文化人類学上の研究史	田村 将人	135

第2部 北アメリカ大陸アラスカの先住民族の歴史・言語・文化

内陸アラスカおよびユーコン準州における 考古学的研究の動向	平澤 悠	171
アラスカ北極圏における気候変動と現代イヌピアット社会	榊原 千絵	205
外部社会との関係史からみる グイッチン社会・文化の研究動向	井上 敏昭	223
アラスカ先住民社会における 「文化キャンプ」に関する研究動向	近藤 祉秋	263
南西アラスカ・クスコクイン川流域における 生業、野生動物管理、金鉱開発の研究動向	生田 博子・久保田 亮	277

環北太平洋における威信財の人類学にむけて —— アラスカ周辺地域の狩猟採集民社会を中心に	野口 泰弥	315
---	-------	-----

第3部 北アメリカ北西海岸の先住民族の歴史・言語・文化

トリングットの口承物語研究の変遷 —— 19世紀から現在まで	林 千恵子	339
ハイダ語（北米先住民諸言語）の系統をめぐって	堀 博文	357
北アメリカ北西海岸地域のハイダ民族に関する 研究動向について	岸上 伸啓	387
カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州における 先住民族の土地に関する権利をめぐる近年の研究動向	永井 文也	429
北アメリカ北西海岸の環境論史の動向	立川 陽仁	461
おわりに	岸上 伸啓	485
執筆者紹介		487

CONTENTS

Preface	
Nobuhiro KISHIGAMI	1
Part 1. History, Language and Culture of Indigenous Peoples in the Siberia and North Pacific Coast Regions of Eurasia	
Research Trends on History of Group Formation in Siberia	
Hirofumi KATO	15
The Position of Chukchi-Kamchatkan Family in the Languages of the North Pacific Rim:	
Testing Fortescue's (1998) "Uralo-Siberian" Hypothesis	
Megumi KUREBITO	51
Research Trends and History on Indigenous Peoples of Kamchatka	
Yutaka WATANABE	79
The Origin of the Kuril Ainu:	
An Overview of Study History and Current Perspectives from Archaeology	
Katsunori TAKASE	99
A History of Ethnographical and Cultural Anthropological Research on the Sakhalin Ainu	
Masato TAMURA	135
Part 2. History, Language and Culture of Indigenous Peoples in Alaska of North America	
Research Trends on Archaeological Studies in Interior Alaska and Yukon Territories	
Yu HIRASAWA	171
Climate Change and Contemporary Iñupiaq Society in Arctic Alaska	
Chie SAKAKIBARA	205
Research Trends in Gwich'in Society and Culture in Terms of Their History of Relations with External Society	
Toshiaki INOUE	223
A Literature Review on Culture Camp among Alaska Natives	
Shiaki KONDO	263

Subsistence, Wildlife Management, and Gold Mine Development in the Kuskokwim River Drainage, Southwest Alaska Hiroko IKUTA and Ryo KUBOTA	277
Toward the Anthropology of Prestige Goods of the North Pacific Rim: With a Focus on Hunter-Gatherer Societies in and around Alaska Hiroya NOGUCHI	315
Part 3. History, Language and Culture of Northwest Coast Peoples of North America	
Tracing the Changes in Tlingit Oral Narrative Studies: From 19th Century to the Present Chieko HAYASHI	339
Haida and Its Genetic Relationship to Na-Dene Hirofumi HORI	357
Research Trends on the Haida People in the Northwest Coast Region of North America Nobuhiro KISHIGAMI	387
Recent Research Trend on Indigenous Peoples' Rights Related to Lands in British Columbia, Canada Fumiya NAGAI	429
A Review on Environmental Studies on the Northwest Coast of North America Akihito TACHIKAWA	461
Concluding Remarks Nobuhiro KISHIGAMI	485
List of Contributors	487

第1部

ユーラシア大陸シベリア・北太平洋沿岸の 先住民族の歴史・言語・文化

第2部

北アメリカ大陸アラスカの先住民族の 歴史・言語・文化

第3部

北アメリカ北西海岸の先住民族の 歴史・言語・文化

執筆者紹介 (50音順)

生田博子 (いくた ひろこ)

九州大学・准教授。Ph.D. (Anthropology)。アラスカ大学フェアバンクス校で B. A., M. A., アバディーン大学で Ph.D. を取得。ダートマス大学極地研究所, アラスカ野生動物管理局などを経て現職。アラスカ先住民の無形文化, 言語, 生存狩猟・漁労について研究。著書に *The Sociality of Indigenous Dance in Alaska* (2022年, Routledge), 『在来知と社会的レジリエンス』(2021年, 筑波書房) などがある。

井上敏昭 (いのうえ としあき)

城西国際大学・教授。筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学。専門は文化人類学。アラスカ先住民グイッチン社会における狩猟・漁撈文化やそれにまつわる今日的な諸問題について研究。またこの社会で若年者支援の実践人類学的活動に従事。著作に「アラスカ先住民と石油開発」(岸上伸啓編『開発と先住民族』, 2009年, 明石書店), 「アラスカ先住民社会における伝統食分配とボトラッチの社会的意義」(岸上伸啓編『贈与論再考』, 2016年, 臨川書店), 「アラスカ先住民集落社会におけるメンター教育の伝統とその若年者支援への応用」(『城西国際大学紀要』28 (3), 2020年) などがある。

加藤博文 (かとう ひろふみ)

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター・教授 (センター長)。筑波大学歴史・人類学研究科博士課程満期退学。専門は先住民考古学や先住民考古遺産。北海道やシベリア地域で考古学調査に従事。著書に *Maritime Prehistory of Northeast Asia* (2021年, Springer Nature) や『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』(2018年, 山川出版社), *Archaeologies of 'Us' and 'Them': Debating the Ethics and Politics of Ethnicity and Indigeneity in Archaeology and Heritage Discourse* (2017年, Routledge) などがある。

岸上伸啓 (きしがみ のぶひろ)

国立民族学博物館・教授 (副館長・情報管理施設長), 総合研究大学院大学・教授 (併任)。博士 (文学)。マギル大学人類学部博士課程中退。専門は文化人類学。カナダ・イヌイットの食物分配や社会変化, 都市イヌイットの生活, 北アメリカ先住民の捕鯨文化について調査。著書に『カナダ・イヌイットの食文化と社会変化』(2007年, 世界思想社) や『クジラとともに生きる ― アラスカ先住民の現在』(2014年, 臨川書店), *Food Sharing in Human Societies* (2021年, Springer) などがある。

久保田亮 (くぼた りょう)

大分大学経済学部・准教授。博士(文学)。東北大学大学院文学研究科単位取得退学。アラスカ先住民の伝統芸能、生業活動と資源開発の関連性などについての研究。主な著作に「ユピックの在来知と知的財産概念——人と伝統芸能の関係性についての事例研究」(齋藤玲子編『カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題——国立民族学博物館所蔵のイヌイトおよび北西海岸先住民の版画コレクションをととして』(国立民族学博物館調査報告131), 2015年, 国立民族学博物館) などがある。

呉人 恵 (くれびと めぐみ)

北海道立北方民族博物館・館長。富山大学・名誉教授。博士(文学)。東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了。専門は言語学, コリヤーク語学。最近の主要論文に, Koryak (*The Oxford Handbook of Polysynthesis*, 2017年, Oxford University Press), Property Predication in Koryak Viewed from Japanese (*Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*, 2018年, Mouton De Gruyter), 「コリヤーク語チャウチュヴァン方言における3系列の母音調和」(『アジア・アフリカ言語文化研究』100, 2020年) などがある。著書に『危機言語を救え! ツンドラで滅びゆく言語と向き合う』(2003年, 大修館書店), 『コリヤーク言語民族誌』(2009年, 北海道大学出版会), 『探検言語学——ことばの森に分け入る』(2014年, 北海道大学出版会, 呉人徳司との共著), 訳書に『怒れる神との出会い——情熱の言語学者ハリントンの肖像』(1992年, 三省堂) などがある。

近藤祉秋 (こんどう しあき)

神戸大学大学院国際文化学研究科・講師。博士(文学)。アラスカ大学フェアバンクス校人類学科博士課程単位取得退学。専門は文化人類学。アラスカの北方アサバスカン社会における生業, 人間-動物の関係, キリスト教化の影響などを調査。論文に「危機の『予言』が生み出す異種集合体——内陸アラスカ先住民の過去回帰言説を事例として」(『文化人類学』86(3), 2021年) などがある。共編著に『食う, 食われる, 食いあう——マルチスビーシーズ民族誌の思考』(2021年, 青土社) などがある。

榊原千絵 (さかきばら ちえ)

シラキウス大学地理環境学科, 国際先住民研究センター・准教授。Ph.D. (Geography)。オクラホマ大学大学院地理学科修了。専門は文化地理学・北米先住民研究。アラスカ先住民イヌピアットの環境観, 口承, 音楽についてフィールドワーク調査。論文に Kiavallakkikput Agviq (Into the Whaling Cycle): Cetaceousness and Climate Change among the Iñupiat of Arctic Alaska (*Annals of the Association of American Geographers* 100(4), 2010年) などがある。著書に *Whale Snow: Iñupiat, Climate Change, and Multispecies Resilience in Arctic Alaska* (2020年, University of Arizona Press) がある。

高瀬克範 (たかせ かつのり)

北海道大学大学院文学研究院・教授。博士（文学）。北海道大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は考古学。日本列島北部、千島列島、カムチャツカ半島、サハリン、サハ共和国などをフィールドとして調査。著書に『本州島東北部の弥生社会誌』（2004年、六一書房）、『江豚沢Ⅰ』（2012年、江豚沢遺跡調査グループ）、『千島列島出土考古資料目録』（2016年、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）、*Illustrated Catalogue of Archaeological Materials from Kamchatka in T. M. Dikova Collection Preserved in the North-Eastern Interdisciplinary Scientific Research Institute, Far Eastern Branch, Russian Academy of Sciences (NEISRI FEB RAS), Magadan, Russia*（2019年、Hokkaido University and NEISRI）、『続縄文文化の資源利用』（2022年、吉川弘文館）などがある。

立川陽仁 (たちかわ あきひと)

三重大学・教授。博士（社会人類学）。東京都立大学大学院博士課程満期退学。専門は社会人類学。カナダの北西海岸先住民、クワクワカワク社会で漁業操業、漁撈、リーダーシップ、ボトラッチなどを調査。著書に『カナダ先住民と近代産業の民族誌』（2009年、御茶の水書房）、おもな論文に「ボトラッチとは、ボトラッチにおける贈与とは」（岸上伸啓編『贈与論再考』、2016年、臨川書店）などがある。

田村将人 (たむら まさと)

国立アイヌ民族博物館・研究学芸部・資料情報室長。文学修士。千葉大学大学院社会文化科学研究科（博士後期課程）中退。専門は樺太アイヌの20世紀の歴史研究。インタビューの他、日露の公文書、新聞記事などを調査。主な論文に「先住民の島・サハリン——樺太アイヌの日露戦争への対処」（原暉之編『日露戦争とサハリン島』、2011年、北海道大学出版会）、「サハリン先住民族ウイльтаおよびニヴフの戦後・冷戦期の去就——樺太から日本への〈引揚げ〉とソビエト連邦での〈残留〉、そして〈帰国〉」（蘭信三編『帝国以後の人の移動——ポストコロニアリズムとグローバリズムの交錯点』、2013年、勉誠出版）などがある。

永井文也 (ながい ふみや)

恵泉女学園大学・助教。修士（人間・環境学）。MA with Distinction in Understanding and Securing Human Rights、ブリティッシュ・コロンビア大学人類学科博士課程中退。人類学や国際人権法の観点から、日本やカナダ西部における国内的・国際的な先住民族の権利回復運動・政策の背景や展開について調査・研究。論文に「カナダにおける先住民族の土地権原承認後の展開——和解に向けた先住民族法の尊重」（『カナダ研究年報』41、2021年）、「先住民族権利運動の意義と脱植民地化の課題——琉球・沖縄の人々による国連活動を事例に」（『平和研究』49、2018年）などがある。

野口泰弥 (のぐち ひろや)

北海道立北方民族博物館・学芸員。修士（社会学）。東北大学大学院（環境科学研究科）博士後期課程に在籍中。専門は文化人類学。北米先住民の物質文化、アイヌ民族の現代のサケ儀礼などを調査。主要論文に Hunting Tools and Prestige in Northern Athabascan Culture: Types, Distribution, Usage, and Prestige of Athabascan Daggers (*Polar Science* 21: 85-100, 2019年, 近藤社秋との共著), 「埋め込まれた物語——カナダ先住民北トゥショーンにおける彫刻と物語」(岡田淳子先生米寿記念論集編集委員会編『日本をめぐる北の文化誌——岡田淳子先生米寿記念論集』, 2020年) などがある。

林千恵子 (はやし ちえこ)

京都工芸繊維大学・教授。文学修士。奈良女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻博士課程単位取得退学。専門はアラスカ・カナダ先住民文学、環境文学。アラスカ先住民トリングットの口承物語と伝統文化、現代アラスカ先住民文学、口承物語の社会問題への応用などを研究。著書（共著）に『エコクリティシズムの波を超えて——人新世の地球を生きる』（2017年, 音羽書房鶴見書店）, 『トランスパシフィック・エコクリティシズム——物語る海, 響き合う言葉』（2019年, 彩流社）などがある。

平澤 悠 (ひらさわ ゆう)

東亜大学人間科学部・准教授。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。専門は、北米考古学・先住民考古学。アラスカ初期移住集団や日本の石器文化を研究。論文に Building a High-resolution Chronology for Northern Hokkaido: A Case Study of the Late Holocene Hamanaka 2 Site on Rebun Island, Hokkaido (Japan) (*Journal of Archaeological Science: Reports* 36, 2021年) や「内陸アラスカにおける細石刃石器群研究の現状と課題」(『古代文化』67(3), 2015年) などがある。共著書に『晩氷期の人類社会——北方先史狩猟採集民の適応行動と居住形態』（2016年, 六一書房）などがある。

堀 博文 (ほり ひろふみ)

静岡大学人文社会科学部・教授。博士（文学）。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。専門は言語学。カナダ北西海岸地域で話されるハイダ語の文法記述に従事。最近の論文に「ハイダ語の所有構造と譲渡可能性」(津曲敏郎先生古稀記念集編集委員会編『津曲敏郎先生古稀記念集』, 2021年, 北海道立北方民族博物館), 「ハイダ語の連体修飾構造」(『静言論叢』1, 2018年) などがある。

渡部 裕 (わたなべ ゆたか)

北海道立北方民族博物館・元学芸員。農学修士。専門は北東アジアの民族学。ロシア・カムチャツカにおいてサケ漁やトナカイ遊牧、狩猟など先住民の伝統的な経済活動や日本人漁業者との接触、さらに現代のカムチャツカ先住民の経済活動などを調査。著作に「カムチャツカ先住民の文化接触——北洋漁業と先住民の関係」(『北海道立北方民族博物館研究紀要』10, 2001年), 「カムチャツカ先住民社会とサケ資源の分配・流通——その歴史の変遷と現状」(岸上伸啓編著『海洋資源の流通と管理の人類学』, 2008年, 明石書店), 「カムチャツカ半島沿岸先住民のシロイルカ猟について——北東アジアにおけるその位置づけ」(岸上伸啓編著『捕鯨の文化人類学』, 2012年, 成山堂書店) などがある。

Senri Ethnological Reports (最新号)

当館のウェブサイトにてバックナンバーのPDFをダウンロードすることができます。

<https://minpaku.repo.nii.ac.jp/>

- No.155 持続可能な博物館資料の保存を考える (2022; 園田直子編; 日本語)
- No.154 Master of Mongolia, A. D. Simukov: His Life and Works (2022; trans. Mary Rossabi, eds. Morris Rossabi and Yuki Konagaya; 英語)
- No.153 片倉もといフィールド調査資料の研究 (2021; 西尾哲夫・縄田浩志編; 日本語)
- No.152 Sur la notion de culture populaire au Moyen-Orient: Approches franco-japonaises croisées (2020; eds. Dominique Casajus, Tetsuo Nishio, François Pouillon and Tsuyoshi Saito; フランス語)
- No.151 Исследователь Монголии А.Д.Симуков: письма, дневники, документы (2021; Сост. Юки Конагая, Наталия Симуко; ロシア語)
- No.150 客家族群與全球現象——華僑華人在「南側地域」的離散與現況 (2020; 河合洋尚・張維安編; 中国語・日本語)
- No.149 世界の捕鯨文化——現状・歴史・地域性 (2019; 岸上伸啓編; 日本語)
- No.148 カクチケル年代記 (2019; 八杉佳穂著; 日本語・英語・スペイン語・カクチケル語)
- No.147 台湾原住民の姓名と身分登録 (2019; 野林厚志・松岡格編; 日本語・中国語)
- No.146 *Satawalese Cultural Dictionary* (2018; comp. Sauchomal Sabino, Tomoya Akimichi, Shuzo Ishimori, Ken'ichi Sudo, Hiroshi Sugita, and Ritsuko Kikusawa, ed. Lawrence A. Reid; 英語・サタワル語)
- No.145 展覧会の研究「ラテンアメリカの音楽と楽器」展 アンケート調査を中心として (2018; 山本紀夫著; 日本語)
- No.144 社会主义制度下的中国饮食文化与日常生活 (2018; 河合洋尚・刘征宇編; 中国語・日本語・英語)
- No.143 *How Do Biomedicines Shape People's Lives, Socialities and Landscapes?* (2017; eds. Akinori Hamada and Mikako Toda; 英語)
- No.142 中国における歴史の資源化の現状と課題 (2017; 塚田誠之・河合洋尚編; 日本語・中国語)
- No.141 アーミッシュたちの生き方——エイジ・フレンドリー・コミュニティの探求 (2017; 鈴木七美; 日本語)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

吉田 憲司 館長
平井京之介 副館長
岸上 伸啓 副館長
園田 直子 人類基礎理論研究部
宇田川妙子 超域フィールド科学研究部
福岡 正太 人類文明誌研究部
三尾 稔 グローバル現象研究部
野林 厚志 学術資源研究開発センター（研究出版委員長）

令和4年11月16日発行

国立民族学博物館調査報告 156

編 者 岸 上 伸 啓

発 行 大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(6876)2151(代表)

印 刷 株式会社 遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06(6304)9325(代表)
